

イヌワシの生息環境を保全するための森林施業について

新潟県イヌワシ保全研究会 代表 柳川 雅文
 田中 晴子
 中越森林管理署 業務課 経営係長 佐藤 信雄
 経営係員 黒木 康平

1 課題を取り上げた背景

希少猛禽類のイヌワシは森林生態系における食物連鎖の頂点に立ち、イヌワシを保全していくことは、その生態系全てを保全し、豊かな生物多様性を支えていくことにもなります。

そのイヌワシも1990年代から減少の一途をたどっており、その生息数は現在では日本全国で約200ペアと絶滅の危機にさらされています。

大きな要因としては餌不足、林相の移り変わりに伴う採餌環境の変化があげられます。こうした中、当署では平成15年からNGO（新潟県イヌワシ保全研究会）と連携し、森林整備を通じたイヌワシの保全と健全な生物多様性の維持を目的とし、実践的な研究を開始しました。

2 具体的な取組

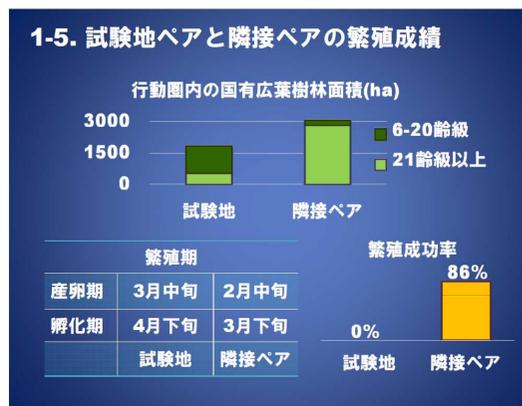
イヌワシが森林の中で餌場としているのは天然林内に倒木等の攪乱により形成されたギャップ（空間）です。そのギャップを人為的に形成するため、うっぺいしたスギ人工林に試験地（0.03～0.08haの群状伐採プロット15箇所）を設定し、プロットの外には普通間伐及び1伐3残の列状間伐を実施しました。

調査内容は①イヌワシの狩場の好適性 ②餌となる動物の生息状況及び生態 ③イヌワシの生息環境を保全するための森林施業の検証についてです。

3 取組の成果

成果としてはイヌワシの餌となるノウサギの食性や生態、イヌワシの飛来日数の増加、また、この調査結果をもとにイヌワシの保全及び生物多様性を維持していくための施業方法の試案があげられます。

イヌワシの狩場の選好性



4 まとめ

平成15年度の調査開始以来、イヌワシの飛来日数の増加等、目に見える形での結果が出ていることは私たちにとって非常に喜ばしいことです。しかし、直近の目標としては試験地での繁殖成功であり、最終的には林業を通じて新潟県でのイヌワシの繁殖成功率を上昇させていくこと。それに伴い生物多様性を健全に維持していくことです。今現在では試験地周辺での営巢も確認されており、今後の進展にも期待しているところです。

最後に今回の研究課題にご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。